



「備えよ。常に」

火災想定避難訓練



6/18 に家庭室から出火の設定で
第1回避難訓練を実施しました。

⑥さない⑧しらない⑨やべらない⑩どらない



災害への適切な対応は、子どもの頃からの防災教育が大切です。

第1回は火災の想定でしたので、避難経路の確認、素早い避難（火災は煙との勝負です。）、放送や先生の指示をきちんと聞くなどを、目的として取り組みました。



命は一つしかないので、火事に気をつけます。僕は自分の命を自分で守りたいと思いました。今日は走らない、しゃべらないのができたのでいいと思いました。

放送がしっかりきけました。煙を吸わないようしゃがんで逃げることができました。



訓練は真面目にすることが大事だなあとわかりました。先生のお話で火は怖いと思いました。

落ち着いて行動すること、体をなるべく低くすることができました。今日は訓練だったけれど本当に火事になったら3分で逃げられるようにしたいです。火事にならないよう気をつけようと思いました。

神山小学校は、校舎が I 型で、階段が1つしか利用できない場合もあります。慌てると階段での事故が起きますが、皆さんの真面目な取り組みで、安全に避難ができました。避難には5分ほどかかりましたが、校舎内の避難も校庭の集合も静かで、安全への意識が高いと感心しました。

6年生 救助袋体験

避難訓練後、6年生は、3階から救助袋を使って避難する訓練を行いました。



怖さを乗り越え、6年生全員が体験できました。



3階から1階に袋を使って降りるのはとても短く感じました。

初めとても怖く、特に手を離す瞬間がとても怖かったです。少し泣きそうになりました。でも、本当に使わないといけないときは、怖いとか言っている場合ではないので、今回体験ができて本当によかったと思いました。やらなくちゃいけないときは、すぐにできるようにしたいです。

最初はドキドキしたけれど、経験したことがあるのですんなり降りることができました。もし、火事が本当に起きたら、自分は、救助袋は平気になっているから、他の子を助けたり、勇気が出るような言葉がけをしてあげたりしたいです。

袋を使って3階から真っ直ぐ1階に降りるのは、高さがあり、実際にやってみるとやはり怖いです。しかし6年生は、もし火災が起きたら、怖いと言っていられないと、袋の前でおろおろせず、真剣な表情で真面目に訓練に取り組んでいました。2クラスとも10分程度で避難を完了していました。



事前に先生たちだけで訓練をしました。

いざというときに、まず先生が動けるためです。

20数年前、阪神淡路大震災の後で安全教育の係になり、防火扉や煙の中の避難などの訓練のため、はじめて煙体験をしたことを思い出しました。教職員は、安全な避難について子供たちと一緒に常日頃から考えていかなくてはなりません。昨年6月には松岡中学校横の繊維工場で、そして7月には京都アニメーション会社で、大きな火災があり、たくさんの命が奪われています。いずれも、有害な煙によって短時間で意識がなくなるなど、煙の恐ろしさが問題となっています。火災の恐ろしさを知り、防火意識を高めるため、訓練後の高評ではそのことについても触れました。